

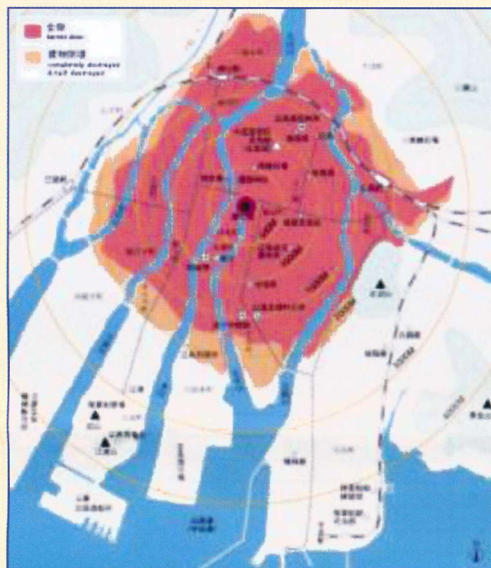
原爆神話のまやかした打ち破り核兵器の全面廃棄を！

神話とは

- ・ 原爆投下により戦争が終わった
- ・ 日本がポツダム宣言を無視したので原爆は投下された

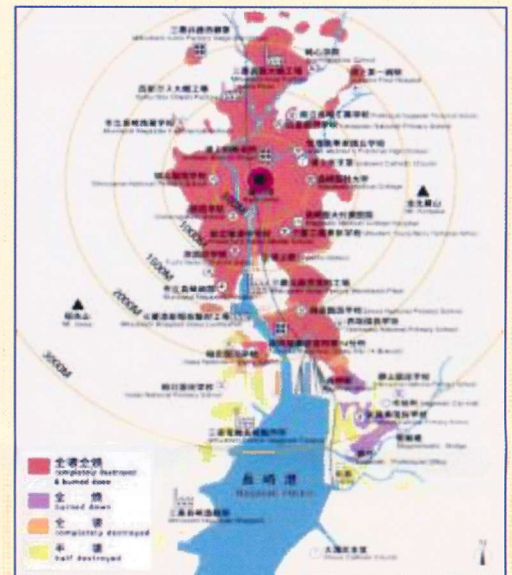
本当は

- ・ 原爆投下は戦後の覇権争いでソ連を恫喝するため
- ・ 原爆投下は大規模な人体実験だった！
- ・ ポツダム宣言の前にすでに原爆投下の命令が出されていた



(広島)

投下された場所	広島	長崎
投下年月時間	1945/8/6 午前8時15分	1945/8/9 午前11時2分
コードネーム	リトルボーイ	ファットマン
燃料	ウラン	プルトニウム
市の人口(推定)	35万人	24万人
死者(推定) 1945年内	14万人	9万人
5年以内	計20万人	計14万5千人

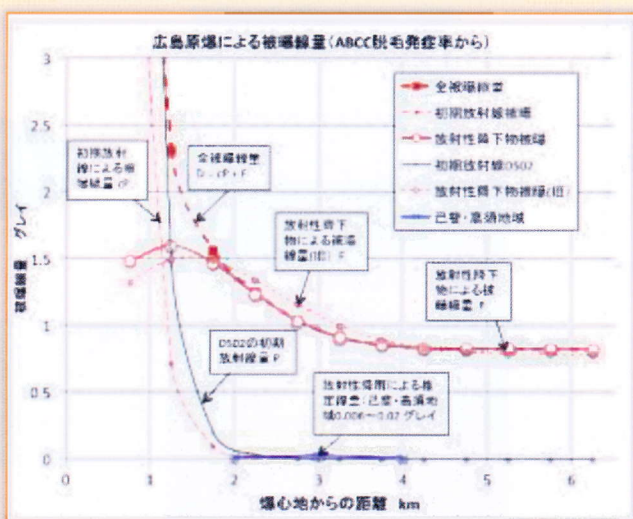


(長崎)

福島原発事故の真実と放射能健康被害

[//www.sting-wl.com/nuclear-weapons.html](http://www.sting-wl.com/nuclear-weapons.html)

「広島原爆による被ばく線量(脱毛発症率から算定)」



直接被爆しなくても、流れてきた黒い雨、すす、目に見えない放射性微粒子によって入市した人や遠くの人まで被ばくしたことが、明らかになった。

(出典：澤田昭二、原爆症認定集団訴訟意見書 2009.6.30)

「黒い雨、黒いすす」



黒い雨(黒い線)、黒いすす(点)のほか目に見えない放射性微粒子が広い範囲に放射性降下物として降ってきた。

原爆症認定集団訴訟記録集刊行委員会：

原爆症認定集団訴訟たたかいの記録 (2011)

核兵器の全面廃棄は私たちの目標

米国に原爆投下の責任を認めさせることはその一歩

人類と核・原子力は共存できない



核戦争の勃発を示す『終末時計』は、 2019年にはいったい2分前を示している。 国連の122カ国の核禁止条約の批准を求め、 米国、日本などそれに反対する国に抗議する



これまで講演した方々

澤田昭二 名古屋大学名誉教授

『核兵器の非人道性』

物理学者の立場から、広島・長崎の原爆による被爆の実態、特に内部被爆の恐ろしさについて解き明かし、長年携わってきた原水爆禁止運動のこれからについて、憲法九条の精神を世界に広め、「核の傘」からの離脱を、と訴える。

浦田賢治 早稲田大学名誉教授

『米国の原爆投下をめぐる犯罪と責任』

原爆投下の「責任を問う」とはどういうことなのか？ マンハッタン計画の詳細と、「原爆投下を裁く国際民衆法廷・広島」で示された法的責任について、法学者の立場から語る。

松村高夫 慶応大学名誉教授

『二回にわたる討論の整理と問題提起』

本会の共同代表の一人。この会を立ち上げた経緯と、歴史認識問題に触れ、専門家任せにしないで市民一人一人が歴史家になることが重要だと、問題提起する。石川町での講演『米国の原爆投下について』では、マンハッタン計画の推移と広島・長崎の原爆投下、遅れたボツダム宣言受諾の真相を検証する。

高橋博子 名古屋大学法学部研究科研究員

『封印された広島・長崎』

米国公文書館の資料をもとに、広島・長崎への原爆投下が多数の無辜の市民を殺戮した責任、放射線被害を過小評価し隠蔽した責任、これらを許し現在の核危機状況を生み出した日本の責任について解き明かす。

伊東達也 原発問題住民運動全国連絡センター代表

『3.11 から8度目を迎えたいま——福島から』

福島県石川町での講演会。原発の爆発から8年経った今なお故郷に戻れず、生活再建、廃炉、放射線廃棄物の処理・保管等々、様々な現実に向き合う住民たちの苦悩と問題点を語る。

小沼通二 慶応大学名誉教授

『核時代の科学者の責任』

物理学者として湯川秀樹、朝永振一郎と親交があり、パグウォッシュ会議に係ってきた経験から、科学者の責任とは研究だけでなく社会との関係を直視し、発言・行動することが重要だと述べる。

加藤哲郎 一橋大学名誉教授

『米国の神話、日本の神話、科学技術のユートピア』

核開発は、米国でも日本でも、原爆で日本は降伏した等々、隠蔽と粉飾、デマ情報が流され展開してきた。戦後、科学者たち多くは「平和のための核」という抑止論に呑みこまれた。その実状を検証する。

崔鳳泰(チェ・ボンテ) 慶北大学法科大学院客員教授

『なぜ今 韓国被爆者が米国政府と企業に謝罪と賠償を求めて訴訟に踏み切ったか』

韓国人被爆者は、原爆を投下した米国や侵略戦争をした日本から、ひと言の謝罪も受けられず今尚苦しんでいる。韓国人被爆者たちが、米国政府、原爆を製造した企業、韓国政府の三者に謝罪と賠償を求めて民事調停を申請し、現在は訴訟手続中だ。困難な闘いだが、諦めずに勝つまで裁判を続ける、提唱し続けること自体が大切なのだと語る。

児嶋俊郎 長岡大学教授

『日本の原爆開発について』

戦時中、石川町ではウラニウム採掘が行われ、日本も原爆開発をしていた。陸軍の「二号研究」、海軍の「F研究」について検証し、それが戦後日本の原子力開発にどう繋がっていったのかを解き明かす。(2018年8月に逝去されました)

田中利幸 歴史学者 元平和研究所教授

『空爆・原爆・へいわ憲法』

日本はなぜ戦争責任問題を解決できないのか。「徴用工」「慰安婦」「731部隊」問題などから見ても、被害者の被害事実をきちんと認識するか否か、加害者の加害事実を認識するか否かにかかっている。

共同代表：高橋 信(愛知県平和委員会理事長) 松村高夫(慶應義塾大学名誉教授) 横田嘉夫(脚本家) 吉澤倫子(中帰連平和記念館理事)
運営委員：浅川保(山梨) 朝倉真知子(千葉) 岩淵とも子(東京) 尾崎佳子(千葉) 梁川勝利(北海道) 榎根俊一(大阪) 金野銀蔵(埼玉)
久保木清三(東京) 久保征子(埼玉) 櫻井淳司(福島) 澤田昭二(愛知) 鈴木佳子(神奈川) 須藤正親(長野) 芳賀晋子(東京)
春山夏樹(神奈川) 星野泰久(東京) 丸山 豊(愛知) 皆川 学(埼玉) 和田千代子(東京) 事務局長：水澤壽郎

「米国の原爆投下の責任を問う会」

申込は郵便振替でお願いします。用紙には氏名・住所・電話・Eメールをご記入ください。

会費は年額 2000 円です。(カンパも歓迎します)

郵便振替口座：00130-5-767717 口座名：「米国の原爆投下の責任を問う会」

〒183-0011 東京都府中市白糸台 1-47-17 水澤壽郎方

TEL 090-1769-6565 メール mimizuku929@yahoo.co.jp

